

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	屋内進入時、濃煙に包まれ退避不能となった事例
3. 体験した事例の中心的要素	炎上中の建物から延焼中の建物に65mmホース・DCノズルを保持し2名で屋内進入した。進入時、火炎は見当たらず、白煙が充満していた。火点を探していた際、急激に濃煙に包まれ、出口を見失った。(障害物が多数あり、65mmホースを保持して動けなかったため筒先は手放していた。)一緒に進入していた隊員は自力で退避したが濃煙と障害物(マネキン、ブライダル衣装等)で方向を見失った。その後、何とか開口部へたどり着き、窓(面格子有)から手を振ったところ、気付いた消防隊が3連梯子を架梯し、面格子をエンジンカッターで切断、そこから退出した。
4. 体験した事例の原因・理由	屋内進入する際、屋外で進入隊員を管理する者がいなかった。退路(ホースライン)を常に意識し、筒先は絶対に放さないという基本を徹底できていなかったため、突然の濃煙の吹き出しに対応できなかった。屋内進入用の40mmホース・クアドラノズルが全て使用されていたため、屋内進入に不向きな65mmホースを使用した。木造密集地かつ強風(風速10m/s)であったため延焼スピードが早かった。

【体験した事例の直接的原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。(延焼の広がりが思ったより早かった等)
------------------	---------------------------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成27年3月11日 午後2時頃
2. 発生した当時の天候	曇り
3. 発生した活動現場	屋内:木造2階建一部鉄骨造 店舗(貸衣装屋)2階
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷しそうになった。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	死亡していた(させていた)だろう
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	退路の消失、寸断
7. 事例体験時の活動	火災現場活動初期、[木造建物]
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	進入・退出
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	はい
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	はい

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	はい
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	はい
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	はい
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	はい

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

--

○装備・資機材の対策について

--

○活動環境の対策について

--

○指揮・情報伝達の対策について

--

屋内進入時、濃煙に包まれ退避不能となった事例

